

KGP

CSR REPORT

2020

-2021



今日も“想い”で世界を彩る。



 **株式会社北四国グラビア印刷**

(株式会社 北四国グラビア印刷 CSR報告書)

- 03 トップメッセージ
- 05 経営理念の体系
- 06 創業の精神・社訓・行動基準
- 07 コーポレートメッセージ
コミュニケーショングラフィック
- 08 グラビアースHAPPYスパイラル
- 09 果たすべき責任
- 10 社会への責任
- 13 お客さま・お取引先さまへの責任
- 17 従業員への責任
- 19 会社概要・業績推移
- 20 わが社のあゆみ



TOP MESSAGE

社会とのおもてなしケーションをベースにして
お客さま・お取引先さまのために
会社の成長のために
従業員の幸福（しあわせ）のために
これからも **グラビアーズHAPPYスパイラル** を
グルグル回し続けます。

代表取締役社長 奥田 拓己

はじめに

このたびの新型コロナウイルスの感染拡大により、世界は予測のつかない厳しい状況に直面しています。一日も早い終息を願うとともに、罹患されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルスがもたらした影響は甚大ではありますが、世界中が今後の社会のあり方を自らに問う機会にもなりました。

当社も地球市民、そして社会の一員として事業のあり方を見直す契機としていかなければならないと考えます。今後も人々の生活に欠かせないライフラインとしての食品や日用品のパッケージ製造事業を担う使命感のもと、社会と未来への責任を果たすべく勤めてまいります。

いまこそ創業の精神を見つめ、企業理念の理解を深めるとき

このコロナ禍の2020年（令和2年）5月、当社は創業50年を迎えました。これもひとえにお客さま、お取引先さま、地域、業界、そしてグラビアーズのみなさまからの厚いご支援と温かい激励の賜物です。ここに心より感謝申し上げます。

あらためて振り返ると、当社の歴史は1960年（昭和35年）に創業者・奥田正幸が、大阪の瀬島機械さまにて、当時まだ黎明期であったグラビア印刷に出会ったことに始まります。この分野の将来性を確信した創業者は技術習得後の1970年、地元・観音寺にて当社を創業しました。そして1972年、本大工場落成時に書道家である義兄・大橋玉涛氏からお祝いと激励にいただいたものが会議室に掲げられて

いる「人生在勤」の書です。それが今も創業の精神として受け継がれています。

創業当時より大手印刷会社さん、蒲鉾や製麺、お土産物などを製造する食品会社さんを顧客にもち、信用を積み上げてきました。1973年のオイルショックではフィルムの手配ができないという状況に見舞われましたが、この時もお取引先さまのおかげで難局を乗り切ることができました。当時より私たちは「人生在勤」という創業の精神を心に宿し、実際の仕事・行動を実践してまいりました。この創業の精神を常に会社の中心に据え、お客さまや社会の変化に柔軟に寄り添いながら、会社としてのブランド力・存在意義を育んできました。



当社・当業界の社会的責任とCSRの取り組みの進化へ

世界に目を向ければ、気候変動や経済格差、貧困等社会・環境を取り巻く課題は数多くあり、国際社会全体が危機感を募らせています。2030年までに国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」、2050年までに菅内閣総理大臣が掲げた温室効果ガスの排出ゼロを達成させなければ

なりません。さらに私たちの業界は脱プラスチック・食品廃棄削減問題の責任も負っています。一見私たちの会社にとっては逆風にも見えるこれらの課題ですが、見方を変えれば、私たちの会社・業界はこれら社会・環境問題の解決に多大な貢献ができる可能性を秘めています。

01

軟包装パッケージが
大きな機会を創出できる！

2030年までに持続可能な開発目標の達成、2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにするためには、第一次産業・第二次産業の生産者から消費者までの経済活動や生活様式の変更、さらにエネルギーの転換が求められます。そのために高度な技術革新の進展が必要です。

当社として、こうした目指すべき目標を達成するために生まれる新技術・新市場を、自らの成長・革新の機会と捉え、貢献・勝機につなげてゆかなければなりません。当社・当業界はその大きな可能性を持っています。

02

軟包装パッケージによって
リスクを最小化できる！

今後、すべての企業は気候変動対策や人権尊重のための方向性をより明確にしなければなりません。自らが生み出す負の環境・社会的インパクトを最小化する活動・経営は、自らに対するリスクも最小化する大きなヒントとなり得ます。

多くの産業と関係をもつ私たちの業界は、社会・地球全体のリスクを最小化できる可能性を秘めています。コンプライアンス遵守はもちろん、必要な情報を開示し、自らを律する規範を定め共有することは、社会を守るためのみならず企業そのものをを守るための盾にもなります。

03

軟包装パッケージは経済活動の
土台を形成できる！

私たちの経済活動を俯瞰的にみると、まず土台に地球環境があり、その上に社会が形成されています。そしてその社会の安定を前提として初めて企業活動が成立するという構造になっています。よって環境や社会が破壊されたら全ての産業が立ち行かなくなります。まさにこの度のコロナ禍はそれを象徴しています。

現在当業界は、人類生存の根幹をなす衣・食・住に関連する産業に必要とされています。私たちが主体的に環境・社会問題に取り組めば、広く経済活動の土台を守ることにもなります。これからの企業は、利益だけを優先し環境や社会に対して悪をなすことは許されません。企業の本分である「社会の役に立ちながら利益を上げる」ことを実現しなければなりません。

グラビアーズHAPPYスパイラル で人財を育て、
ステークホルダーのみなさまに幸福（しあわせ）をお届けできる会社をめざします。

長い間にわたり企業活動は売上主義の時代が続ききました。その次は利益至上主義時代、続いて企業は株主の利益を守るため、また従業員を守るために在ると言われ、最近では社会に必要とされる企業、世の中から尊敬される企業にならなければならないという経営者が増えてきました。そして今後もこの価値観は時代背景によって変わっていくと予想します。

私は、どの考え方も正しく、どれも欠けてもならないと思います。当社はこの考え方を2012年に「**グラビアーズHAPPYスパイラル**」と表現し社内で共有してまいりました。創業の精神を頂点に据えた経営理念の実現を目指してきた北四国グラビア印刷の従業員みなさんには、他者・社会を思いやる優しさや厳し

さが備わっていると考えています。それは主たる事業活動だけではなく、人財を育てるさまざまなメニューを設け、それを長年にわたり実践し、人として正しい道、すなわち人間的基礎力を磨いてきたからです。この利他の心をもった同士がさらに同じ価値観を持つ外部の方々も引き寄せ協業することによってこそ、これからの環境・社会問題を解決することができると考えています。

日々創業の精神「人生在勤」の実践、社訓「全グラビアーズの物心両面の幸福（しあわせ）を追求すると同時に、社会・地域・業界の進歩発展に貢献する」の実現をめざすグラビアーズとともに、当社はステークホルダーのみなさまからの期待に応えてまいります。



01

経営理念の体系

System of Our Mission



02

創業の精神

The spirit of founder

人生在勤

まじめに生きること、全力で物事にあたるのが仕事、家庭、社会における幸福につながります。

03

社訓

Our Value

全グラビアーズの物心両面の幸福を追求すると同時に、社会・地域・業界の進歩発展に貢献する。

1970年、当社は資金も信用も実績もない小さな町工場からはじまりました。頼るものはなけなしの機械と技術、そして共に働く社長と専務を含めたたった4名の仲間だけでした。会社を存続させるため、いただいた仕事に感謝の念をいっぱいに入れて働いていました。

その後、1972年と1992年の工場移転をしながらも、脈々と創業の精神である「人生在勤」の教えは受け継がれました。そして2017年にこの新しい社訓が制定されました。働く目的を自分自身や一緒に働く仲間、そして自分が大切にしたい人たちの物心両面の幸福を追求することとし、その上で仕事を通じて社会・地域・業界の進歩発展に貢献することと決めました。

今年、2030年の創業60周年に向けてのスタートの年です。この経営理念の実現を目的にして着実に当社の“想い”をカタチにしてゆきましょう。

04

行動基準

Our Standard

- 一、品質に対してとことん責任を持つ。
- 一、良質で価値ある商品・優れた技術・親身なサービスで社会に貢献しよう。
- 一、何事にも進んで協力し、相互信頼から役立ちの場を創造しよう。
- 一、良いコミュニケーションと協調性で、企業革新に挑戦しよう。

- 従業員全員で手と手を携え、お客さまの求めるものに対する絶え間ない努力をしよう。
- 社会的視野に立ち、人間性を尊重し、よりよい人間関係を社内外に広くつくろう。
- ひとつの行動に責任を持ち、日常の些細なことにもまじめに取り組もう。
- 柔軟な組織の中で個人一人ひとりの尊重とチームワークを最重要視し、自ら能動的に変化しよう。

05

コーポレートメッセージ

Corporate Message

今日も“想い”で世界を彩る。

北四国グラビア印刷のあらゆる考え方をよりわかりやすく伝え、
私たちが大切にしているものや活動、社会における役割を共有するための言葉です。
以下が私たちの基本的な考え方です。

私たちは、お客さまと商品の魅力を最大限に引き出し、
新たな価値と感動を想造する、グラビア印刷のプロフェッショナルです。
私たちは、こだわりと愛情を注いだ商品をつくり、笑顔をもっと増やしたいと願う人に、
全力で目を配り、気を配り、心を配り、磨き続ける技術と品質によって、
確かな安心と、一歩先のサービスを提供します。
そして、ともに想いをカタチにする、真摯で頼もしいパートナーのように接します。
最強のチームワークが織りなす、自社一貫体制とおもてなしケーション、
それが私たちの誇りです。

06

コミュニケーショングラフィック

Communication graphics



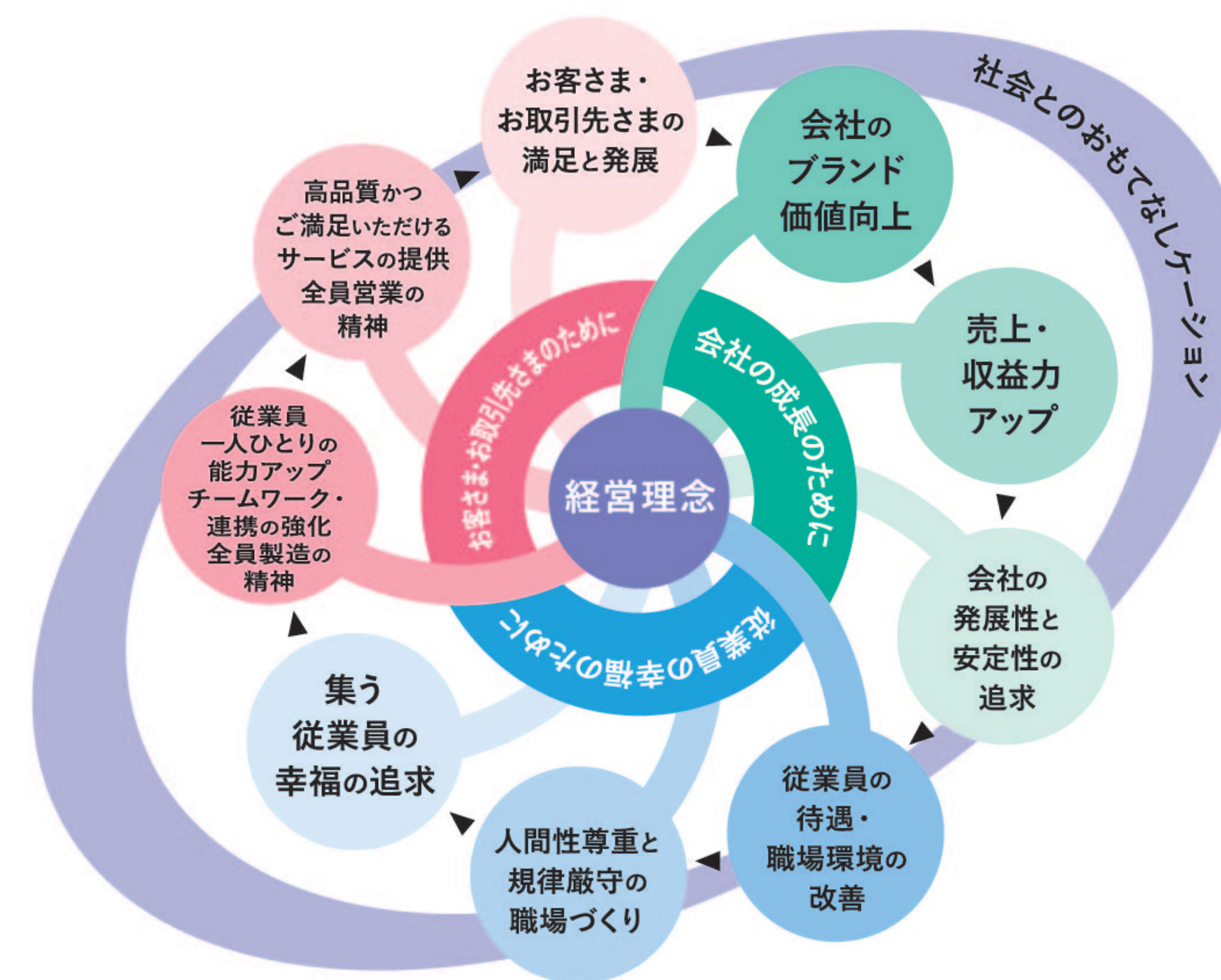
名称：彩リボン（イロドリボン）

コーポレートメッセージと同時に掲げた、線と線の結び目を3つの輪で表したコミュニケーショングラフィック。
これは、コーポレートメッセージを伝えていくためのビジュアルです。3つの輪は、お客さまの想い、北四国グラ
ビア印刷の想い、生活者の方々の想いを表現しています。私たち北四国グラビア印刷が、世の中の想いをつな
ぐ接点であり続けたいという姿勢を表しています。

07

グラビアーズHAPPYスパイラル

Gravures Happy Spiral



「お客さま第一主義」、「従業員第一主義」など、企業によって大切にしていることは様々です。
当社でも、どちらを重視していくのか、という議論が真剣に交わされていました。
しかし、どちらも大切なことだからこそ、その議論の結論はなかなか出ませんでした。
そんなときに出会ったとある企業の考え方に触発され生まれたのが、
このグラビアーズHAPPYスパイラルです。
どれが一番、どれが二番・・・ではなく、経営理念を軸として
「お客さま・お取引先さまの満足」「会社の成長」「従業員の幸福」
そして「社会とのおもてなしケーション」は全て【つながっている】のだ、という考え方です。
このスパイラルが時計回りにつながり、回り、そしてどんどんスパイラルアップしていく・・・
それこそが、私たちの【経営理念の実現】のひとつの形なのです。

*グラビアーズ・・・当社従業員の愛称です。
*おもてなしケーション・・・おもてなしの心を持ってコミュニケーションを取る（関わる）ということを表す造語です。

北四国グラビア印刷が果たすべき責任

企業が存続し続けるためには「利益」が必要です。

しかし利益の追求だけでなく、その活動の根本には「事業活動を通じて倫理的観点から社会に貢献していく」という姿勢がなければならないと私たちは考えています。

私たちは、私たちの事業活動が社会に与える影響に責任を持ち、

私たちに関わる全ての人や組織の物心両面の幸福（しあわせ）を実現させます。

社会への責任 Stakeholder Satisfaction

当社の事業は枯渇原料(原油)に依存した、環境負荷の高いものであるといえます。だからこそ、環境保全やパッケージの未来を真剣に考え、SDGsやESGの方針に沿って地域社会、業界、そして地球全体のために、という視点で事業活動をしています。

P10 ▶

お客さま・お取引先さまへの責任 Customer & Partner Satisfaction

お客さま・お取引先さまに「安心」していただくために「安全」という価値にとことんこだわります。「食品安全」がそのひとつです。当社では品質やサービス、提供価値を高め続けるため、様々な改善活動を展開しています。

P13 ▶

従業員への責任 Employee Satisfaction

当社の credo には「限りある人生の多くを過ごす会社」という表現があります。その会社で過ごす時間が従業員の幸福につながるよう、多様な価値観に対応できるよう、コミュニケーション活性化や人材育成など、たくさんの取り組みをしています。

P17 ▶

社会への責任

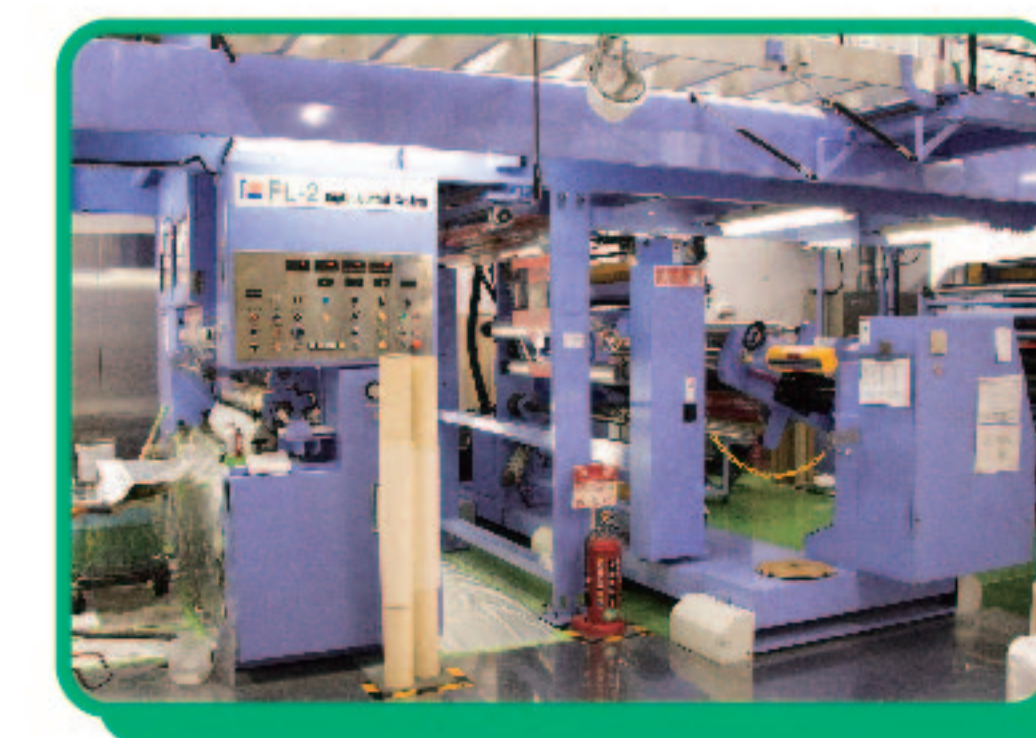
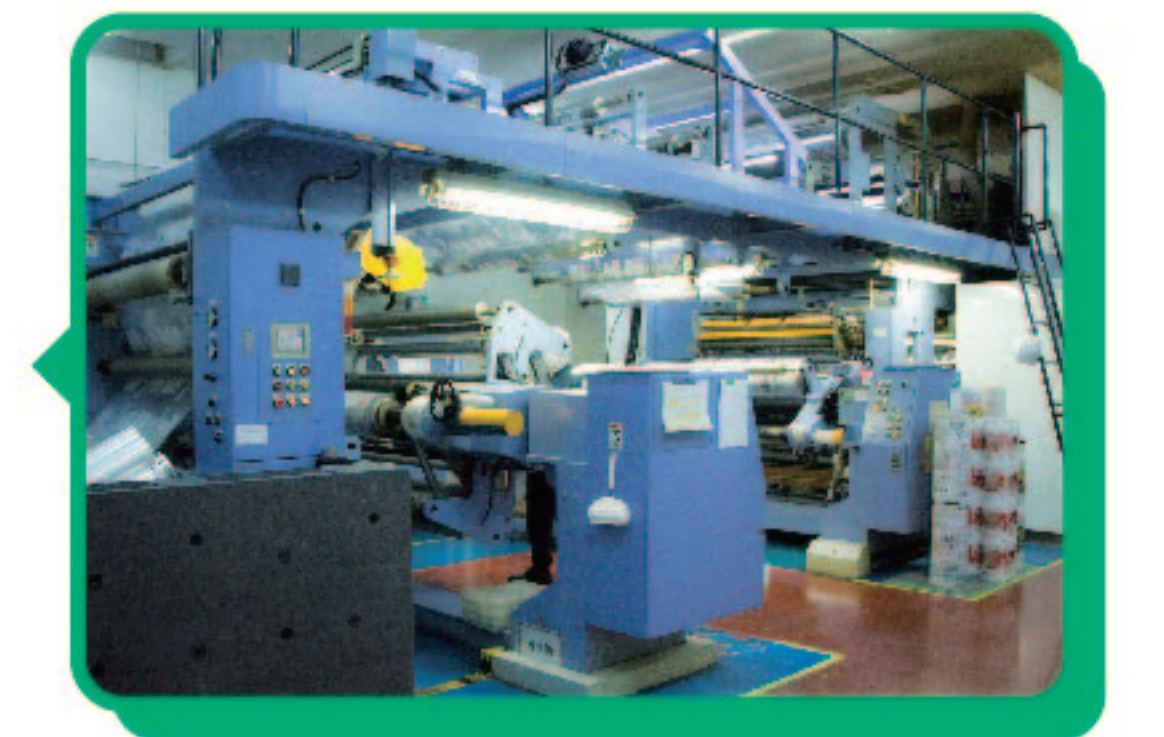
Stakeholder Satisfaction

KGP Eco Project

私たちは、環境を経営の重要課題のひとつと位置付け、様々な環境への取り組みを行っています。「自分たちが育った環境を子供たちにも残したい」そんな想いで、環境を守るエコ活動を行っています。

{ ノンソルベントラミネーター }

プラスチックフィルムのラミネート方式で一般的なのはドライラミネートです。この方式では接着剤を希釈するために有機溶剤を使用します。それに対してこの「ノンソルベントラミネート」はその名のとおりに「ノン(無)」「ソルベント(溶剤)」で、溶剤を使用しないラミネート方式です。溶剤を使用しないことで作業環境が良くなることはもちろん、揮発性有機化合物(VOC)の大気への放出もないため、周辺や地球環境の保全に効果があります。



{ ハイソリッド型接着剤 }

当社では上記ノンソルベントラミネート機1台の他に、ドライラミネート機を2台保有しています。こちらは有機溶剤を使用する方式なのですが「できるだけ有機溶剤の使用量を削減できないか」と考え、接着剤メーカーさまの協力を得ながら「より少ない有機溶剤でも塗工できる接着剤の選定」と「その塗工条件の検証・設定」を行いました。結果として、ラミネート工程での有機溶剤使用量を約35~50%削減、製品への残留溶剤も50%削減(NY15μm//LLDPE50μmの場合)させました。

{ VOC処理設備 }

VOCは揮発性有機化合物(Volatile Organic Compounds)の略称で、大気中の光化学反応により光化学スモッグを引き起こす原因物質の一つとされており、大気汚染防止法(2004年5月改正、2006年4月1日施行、既設の設備は2010年3月31日までが猶予期間)により排出規制が実施されました。当社では法令遵守とCSRの観点からVOC処理設備を導入、単にVOCを除去するだけでなく、その際に発生した排熱を回収し乾燥工程に再利用することで、熱源に使用している燃料の削減も実現しました。これによる年間CO₂削減効果は、樹齢40年のスギの木13,000本が1年間に吸収するCO₂の量と同等です。



{ 空調設備の負荷低減 }

作業環境を良くするため、品質を安定させるため、といった観点から、工場内の温度は空調設備で管理されています。この空調設備のエネルギー消費量はとても大きいため、当社ではエネルギー消費を低減させるために「工場屋根の断熱塗装」および「空調設備から排出されるドレン(排水)を回収し、スプリンクラーで屋根への散布」を実施しています。従来は捨てるだけだったドレンの水温は15°Cと低く、これを再利用することで屋根の温度を16°C下げることができました。

社会への責任

Stakeholder Satisfaction



{ 3R+T活動によるゴミゼロ化への挑戦 }

『環境保全を前提とした循環型社会の形成』が求められているなか、私たちは、廃棄物のリサイクルや、VOC処理設備によるエネルギーの再利用を行っています。3R+T活動は、私たち一人ひとりが環境に対し出来ることを考え(Think)行動する活動です。製造業だからこそ、これからも真摯に社会・環境と向き合い、持続可能な社会への貢献を続けてまいります。

{ グリーンプリンティング認定制度 }

当社は、環境に配慮した印刷工場で製造を行っています。これは、設備面のみではなく、ゴミ箱やインキの蓋を常に閉めることで有機溶剤の揮発を防止するなど、ソフト面でもいろいろな取り組みをしています。また、製造時に発生する廃棄物の量も極限まで削減できるように取り組んでいます。このような取り組みは、一般社団法人 日本印刷産業連合会のグリーンプリンティング認定制度により、認定されています。



{ 環境対応インキ }

インキの一部に植物由来の原料を使用したバイオマスインキを使用しています。バイオマスインキは、CO₂の削減と持続可能な原料調達による自然環境の保全を実現します。当社では、2017年から顧客企業の要望に応じて限定的に使用してきましたが、2021年から基本インキをバイオマスインキに切り替えています。

{ 環境包材 }

顧客企業から環境に配慮した包材の問い合わせを多く頂いています。当社としても、持続可能な社会の実現のため、積極的に製造や物性評価を行っています。具体的には、薄肉化・植物由来・生分解・紙などです。これらを実現することで、生活になくはならないパッケージのCO₂削減と持続可能な原料調達を目指しています。



地域社会への貢献

地域社会への貢献の一つとして、地元小学校への寄付(2020年は除菌電解水給水器1台、電解補助液1箱)や小学3年生の社会科見学の受け入れ、また高校での出張授業などを実施しています。当社は学校への支援を通じて、社会全体の財産であるこどもの未来を明るく照らす活動を今後も継続していきます。



SDGsの取り組み



競争力を得る活動で社会的価値を創り出す

SDGsは2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」で193の国連加盟国の合意のもと採択されました。改めてSDGsの目標と当社の関わりをまとめると、「技術革新」「教育」「働きがい」「環境配慮」など以前からの取り組みがリンクしています。これからはさらに本業で社会的価値を創り出す、またそれにより競争力を得る活動が必要です。また、私たちは地方である香川県を拠点に取り組むことに意義があります。



開発部長 森本 未沙さん (SDGsカードゲーム 公認ファシリテーター)

当社では、SDGsの目標達成に向けて仲間を増やす活動をしています。2030SDGsカードゲームを通して、SDGsへの理解や可能性を体感してもらっています。2020年末までに160人を超える方々と一緒にカードゲームを通じてSDGsについて考える機会がありました。参加して頂いた方はみなさん、利己的ではなく全体をよくするために、今後ご自身が何をするのかを考え、実践して下さっています。

お客さま・お取引先さまへの責任

Customer & Partner Satisfaction



徹底した衛生管理

私たちのパッケージはお客さまの商品の一部です。消費者に安全安心な商品を届けるため、日々衛生管理に取り組んでいます。

ISO22000取得

当社では、食品や品質要求の高い製品を多く取り扱っています。そこで、2015年にISO22000を認証取得しました。私たちはフードチェーンの一部としてお客さまにそして消費者に安全安心な製品をお届けできるように、しくみを構築しています。また、FSSCではなく、ISOを高いレベルで運用することで、当社に合わせた食品安全の方法を構築しています。



「食品安全委員会」として、社内での意識浸透や改善活動を率先して行っています。



ISO22000の更新維持のために内部監査員を設け、定期的な監査を行っています。



更新審査は外部の方の厳しいチェックのもと実施されます。

F.S (フードセイフティー) NEWS

ISO22000を認証取得して以来、毎月F.S NEWSを発刊しています。これは、当社の食品安全に関する取り組みを、従業員に伝えるためのツールとして活用しています。この中では、手洗いの残りやすい箇所の検証や防虫管理、監査のしくみと結果などあらゆるテーマを取り上げています。この内容は、お客さまや仕入れ先さまにお渡しし、アドバイスをもらいながら食品安全チームの活動に反映させています。(2015年4月からスタートし、毎月20日発刊。最新版69号(2020年12月号))



異物混入防止の徹底

工場内には持ち込み物を制限し、最低限のものしか持ち込まないように管理しています。もちろんこれは従業員のみではなく、来訪者さまも対象となります。また、工場入り口では、履き替えを徹底し、工場内に異物を持ち込まないようにしています。その他にも、防虫管理の徹底や、血痕の付着対策などさまざまな取り組みを実施しています。



靴の裏などに付着した細菌やウイルス、ゴミの侵入を入室前の「履き替え」で防いでいます。



防虫に精通した業者さまに、毎月改善箇所や方法のアドバイスをいただいています。



ケガ時の絆創膏には青いタイプのものを使用。混入の際に見つけやすく、金属探知機にも反応します。

回収訓練

当社では、1年に1回、不良が発生したことを想定し、遡ってどこまで不良が発生しているか、それが今どのような状態にあるのかを確認するという訓練を実施しています。これは異常発生時に「正確に早く、波及範囲を特定できるしくみ」になっているかの検証をするためです。また、実際に自分たちでトレースすることで、回収訓練を通して「帳票記入」や「キープサンプル」の重要性を理解してもらうことも目的としています。



品質保証チーム 井手 将允さん



正直なところ、本人の意思があれば禁止物の持ち込みや、正規の手順をふまずの入場も可能です。でもなぜ当社にそれをする人がいないのか、それは従業員みんなが持ち込んではいけないこと、管理が必要なことなどの“取り組みの意味と目的”を大切にしているからです。ローマは一日にして成らず、過去から今日までみんなが誇りにしていると思います。もちろんこれからも続けていきます。

お客さま・お取引先さまへの責任

Customer & Partner Satisfaction



QCサークル活動



改善活動ではなく、主体性を育む「人財育成」

2007年から始まり、毎年新たなテーマを掲げ、全員参加にこだわり活動を継続してきました。改善活動はもちろんですが、QC手法を取り入れた当社独自の仕組みにより、「問題解決手法の習得」「徹底した進捗管理体制=PDCA+Lサイクル」「次世代リーダーの育成」など、今では欠かす事の出来ない人財育成の場となっています。また、QC検定の推進も行っており、従業員の8割が資格取得することができています。

QCサークル発表会

活動の成果を社内だけでなく、お客さま・協力会社さま・仕入先さまにも見ていただくことでパートナーシップを育み、お互いになくてはならない存在であり続けるための活動となっています。また、発表会の運営においても、その年の新入社員が行う事で、同期の絆と人財育成の場となっています。



仕上チーム 入江 晃仁さん (前QC委員長)

私自身も過去にQCリーダーを経験し、大きな成長と多くの経験をさせていただきました。その経験を活かし、事務局として各QCサークルへのサポート体制や仕組みを充実し、活動環境を整えてきました。それにより活動を活性化し成功体験へ導くことで、各QCリーダーはもちろんメンバーのモチベーションと成長の好循環スパイラルへとつながると考えています。

BCP対策

「もしも」のときに、いかに被害や影響を最小限にとどめるか、いかに早く重要業務を復旧させることができるか、なによりも人命を守るために何が必要か・・・こういった観点から当社ではBCP(事業継続計画)を策定しています。その内容や取り組みが評価され、香川県中小企業BCP優良取組事業所認定制度で認定企業に選出されました(平成29年度認定、令和2年度更新)。社員やお取引先さま、社会への「安心」のために、BCPの内容と運用を高めていきます。



5S活動



「守ることを決めて、決めたことを守る」風土醸成こそが真の目的

弊社の5S活動はきれいな職場にしていくための手段であり、目的ではありません。5S活動を徹底する事で、職場環境が変わり、美しい環境に変わっていくプロセスの中で人が育ち「守ることを決めて、決めたことを守る」という風土醸成こそが真の目的です。企業存続に不可欠な「人づくり」の基礎を作り最大の力を発揮させる事で品質、安全、顧客サービスを向上させていきます。

主な5S活動

各エリアの改善箇所を掲示し、良い取り組みは横展開につなげています。また定物定位置を心がけ、探す手間や紛失のリスクを低減しています。

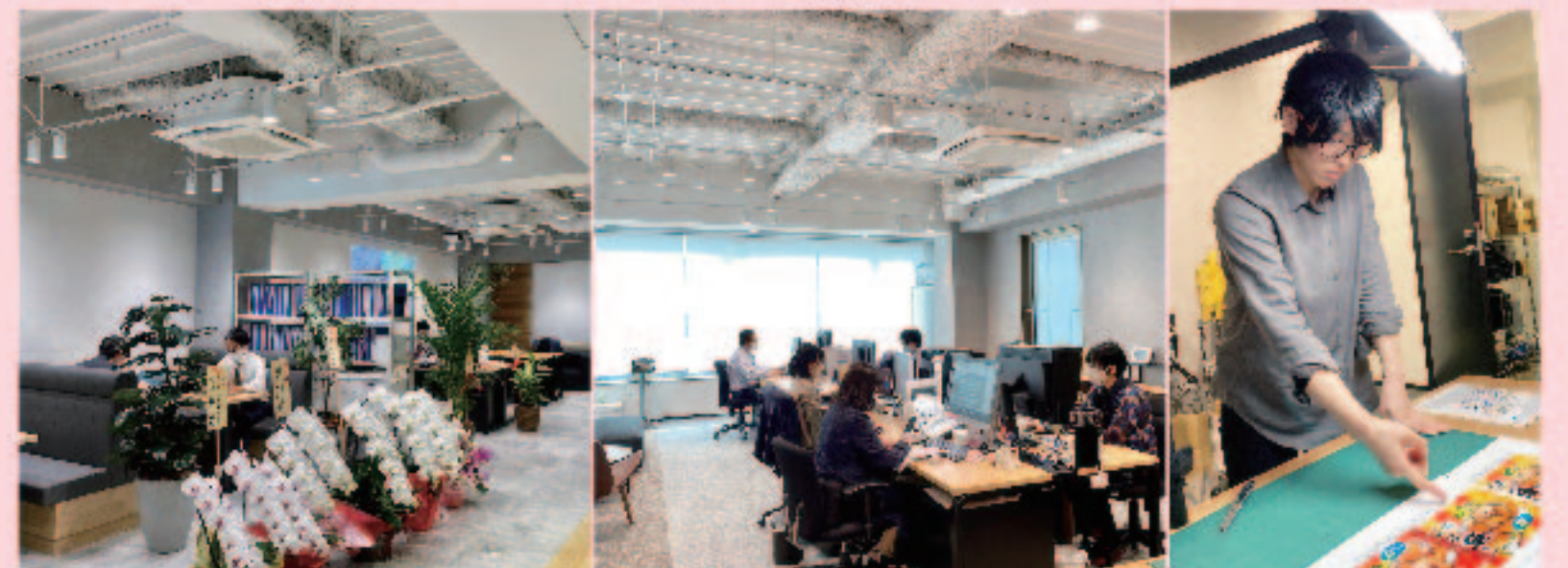


総務経理チーム 久保 りささん (前5S委員長)

「守ることを決めて決めたことを守る」のテーマのもと、一人ひとりが楽しさや難しさを感じながらどんな改善にも考え(想い)をもった改善活動にすることを目標に取り組んできました。2020年は改善者の想いがまわりを巻き込み、5Sの輪が大きく広がった1年でした。この歴史ある弊社の5S活動を通して小さな成功体験を繰り返し、皆が楽しんで成長できる場であり続けてほしいです。

東京営業所からの価値発信

より多く、きめ細やかにお客さまのニーズにお応えするために東京営業所を構えたのが2007年。当初は人員も設備も最低限でしたが、サービス向上を目指す中で規模を拡大してきました。現在は色校正会のためのプリンターや、遠隔で刷り上がりの色を確認できる「リモート色校正システム」も導入し、ただの営業所ではない「提供価値を向上するための拠点」としての機能を高めています。



従業員への責任

Employee Satisfaction



レクリエーション活動

レクリエーション活動は主に社内のコミュニケーション活性化を目的としていますが、計画の立案や事業費の予実管理など、事業を行う上で必要な事を担当者が考え、協力しあう事で人財育成の場にもつながっています。また、人とのつながりが強くなる事で、業務上のコミュニケーションが円滑になり、生産性の向上にもつながると考えています。



社員教育



何よりの財産である「人財」。人の良い点や課題を見出し、それを成長につなげていくことが企業の力、品質やサービスを高めていく一番の道だと考えています。当社ではいわゆる「教育研修」だけでなく、社内のあらゆる活動(5S活動、QCサークル活動、安全衛生、レクリエーション、人事制度etc...)の中に人財育成の視点を取り入れ、多角的に人財の育成・成長を支援しています。

発表の場が多く、「自分の考えを人に伝える」ということが自然と身に付いています！



資格取得支援

資格取得で大切なことは、自分事と捉え主体的に参画することです。仕事では経験やスキル、技術はもちろん大切ですが、基礎知識はもっと大切です。会社推奨の資格に関する勉強をする事により、その分野での知識を深める事ができ、実践的な場での経験だけでは知りえない、新しい教養が身に付きます。時間を作り達成した喜びをモチベーションとし、最高のパフォーマンスにつなげています。



多様な働き方への支援



「働き方の多様性」と「活発な社内コミュニケーション」の両立

環境の変化やライフサイクルの都合で日々出社することが難しくなった従業員も在宅やテレワークで働けるよう、2020年に在宅ワーク規定を刷新しました。今はネット環境さえあればどこでも働くことができる時代ではありますが、弊社が大切にしている従業員同士のコミュニケーションも今まで以上にとれるよう、ミーティングや情報共有が容易に行えるアプリやWEBを利用して「働き方の多様性」と「活発な社内コミュニケーション」の両立を目指しています。

人財開発チーム 近藤 育代さん



女性の社会進出を後押しする世の中で、まだまだ結婚・妊娠・出産を経験した女性が働き続けられる環境が伴っていないと感じることが多々あります。今ある産休・育休・時短等の制度を最大限に活用し、子育てしながら長く働ける環境づくりの一環として、テレワークの実現を目指しています。新しい働き方にも対応できる仕組みを作り、長く働ける人財を確保・育成することで、会社の価値を高めています。

COMPANY PROFILE

会社概要

設立	1976年1月(創業1970年)
資本金	3億1,000万円
代表者	代表取締役社長 奥田拓己
本社工場	〒768-0052 香川県観音寺市粟井町755番地 TEL:0875-27-9280 FAX:0875-27-9380
東京営業所	〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-9-13Biz-ark浅草橋駅前5階 TEL:03-6682-3005 FAX:03-6682-3006
従業員数	118名(内、パートタイム2名)
売上高	39.1億円(2020年12月期)
決算期	12月末
事業内容	グラビア印刷による軟包装材の製造、及び包装材の仕入並びに提供



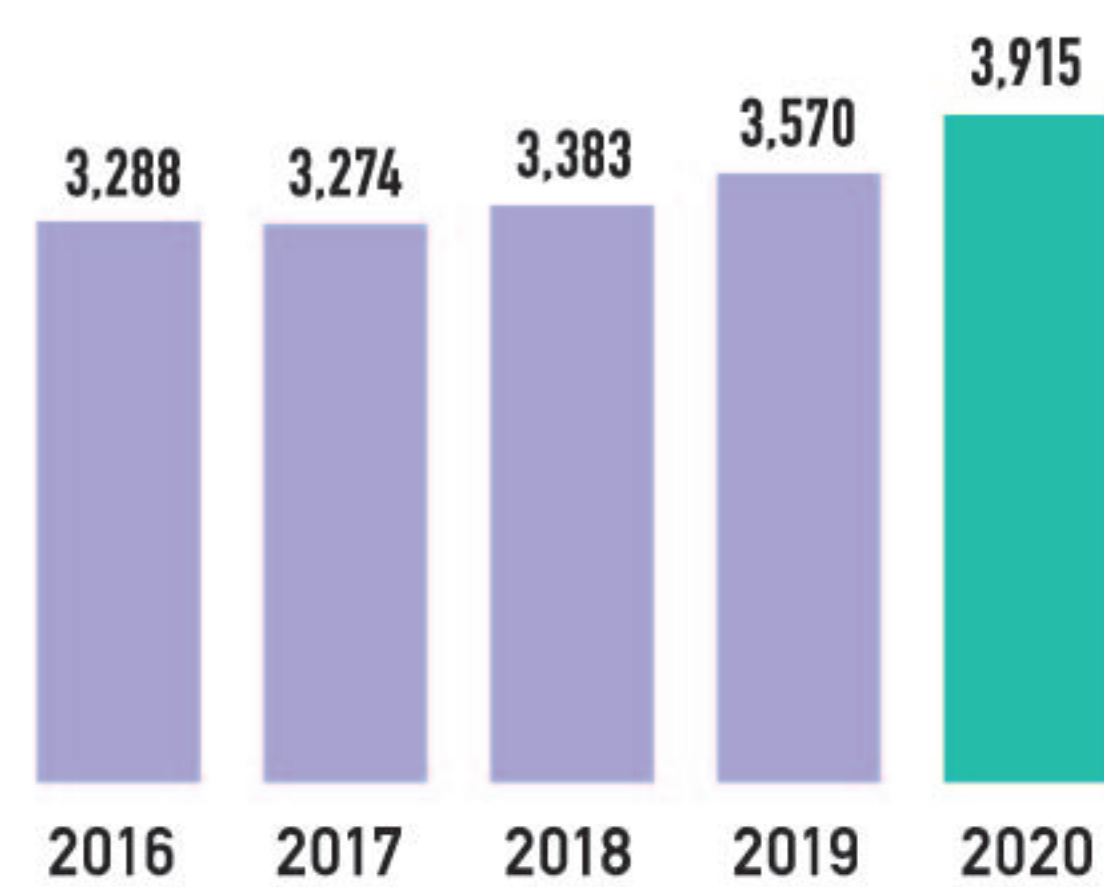
本社



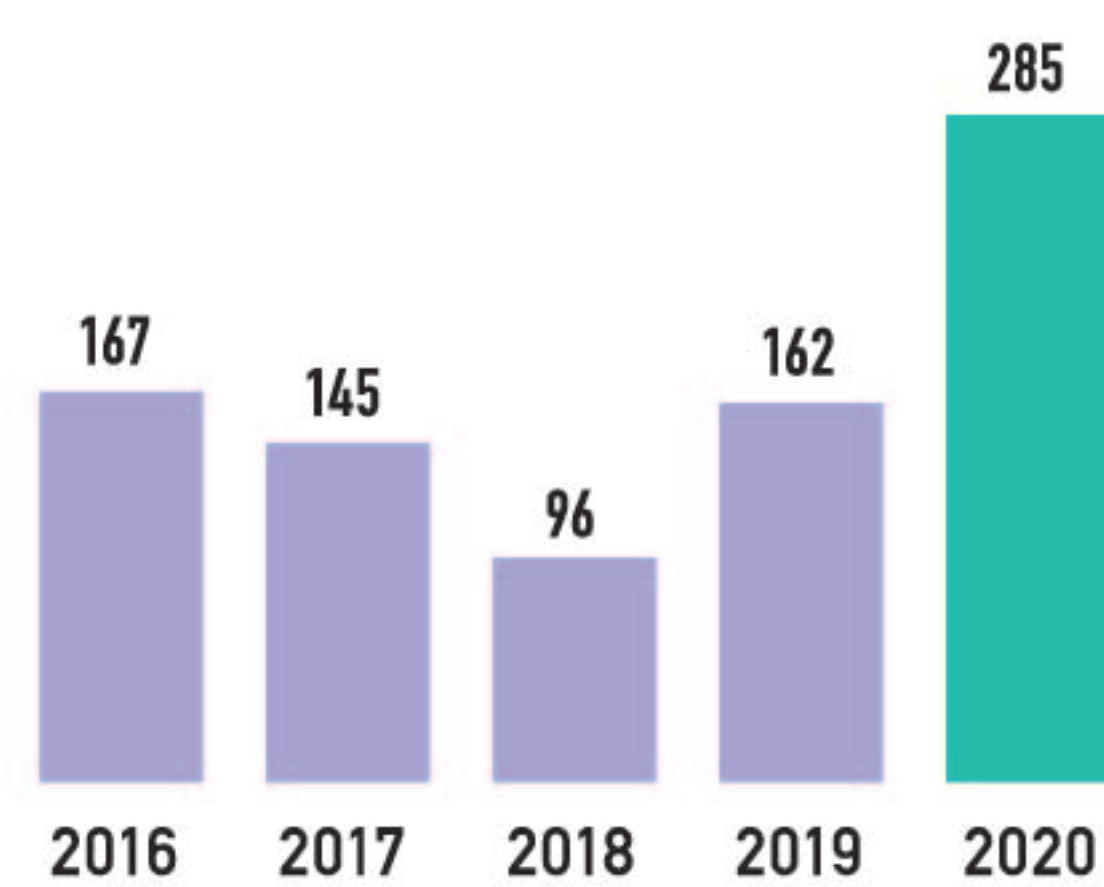
東京営業所

業績推移

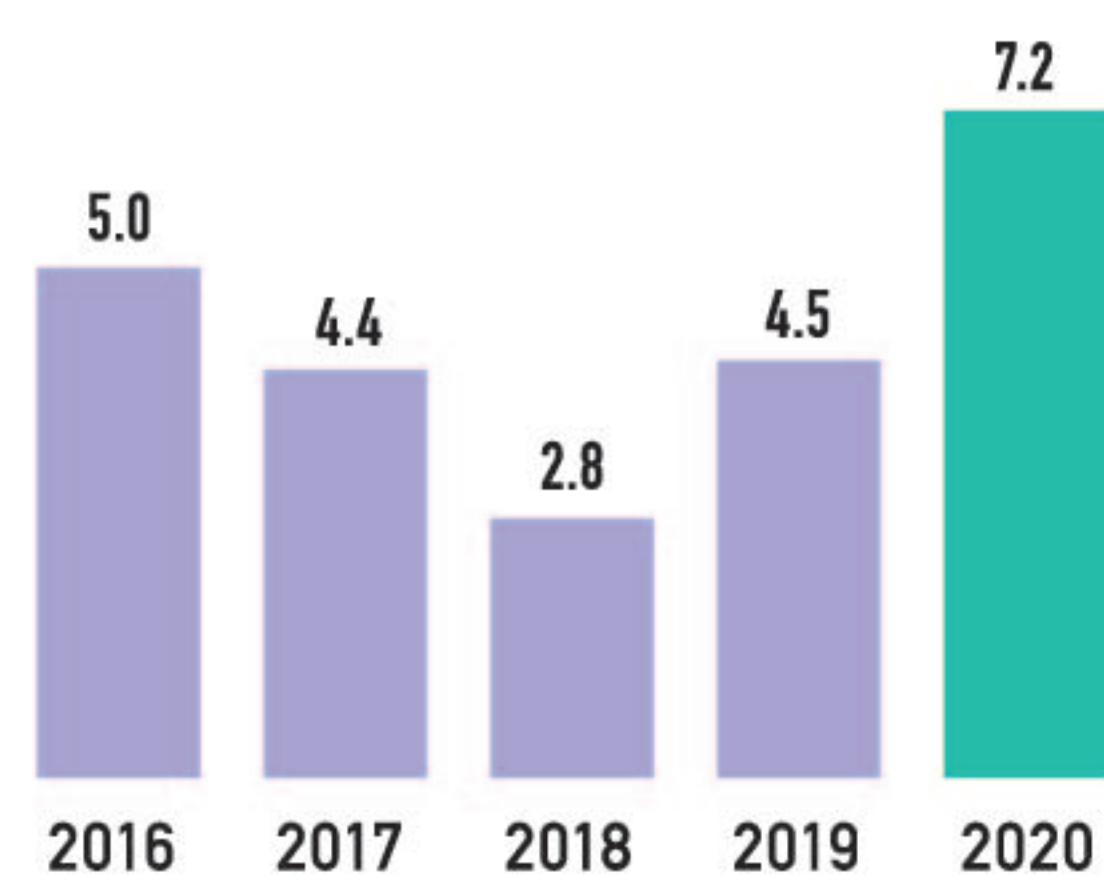
売上高(百万円)



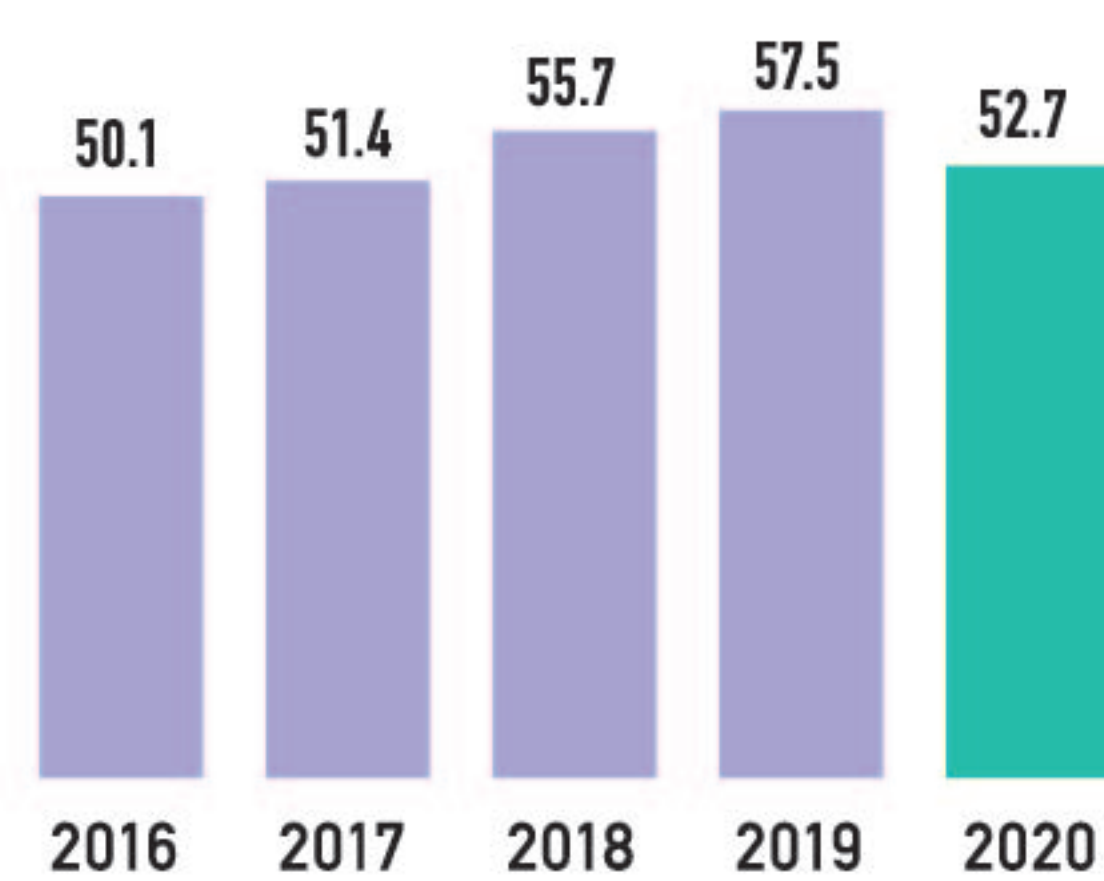
経常利益(百万円)



経常利益率(%)



自己資本比率(%)



わが社のあゆみ

西暦/年号	主なできごと
1970 昭和45	前会長奥田正幸が香川県観音寺市八幡町において北四国グラビア印刷創業、ポリチューブ4色機導入(既設は600mm幅3色機のみ)
1972 昭和47	観音寺市本大町1735-1番地に新工場新築移転、スリット機“初”導入
1973 昭和48	1色1000mm幅印刷機導入
1975 昭和50	倉庫増築
1976 昭和51	株式会社北四国グラビア印刷を資本金1000万円にて設立
1980 昭和55	コピー機“初”導入、ドライラミネート機“初”導入
1983 昭和58	ファクシミリ機“初”導入、梱包機“初”導入
1984 昭和59	6色印刷機導入
1987 昭和6	5色印刷機導入
1992 平成4	観音寺市粟井町755番地へ本社並びに新工場新築移転、完全冷暖房、無窓工場にて防虫・衛生面の完備を図る、9色振分け印刷機(1号機、2号機)、ドライラミネーター機(1号機)増設
1994 平成6	6色広巾印刷機(6号機)、スリッター機(東伸製)増設
1996 平成8	広巾ドライラミネーター機(2号機)、スリッター機、検品機増設、北側倉庫新築
1997 平成9	第一次空調工事
1998 平成10	軟包装衛生協議会認定工場取得(202号)
1999 平成11	第二次空調工事、ガスクロマトグラフ一式、フィルムシート一式 圧縮梱包機5台、小型万能試験機一式、ヒートシールテスター一式導入
2000 平成12	自動梱包機、コータリフト、10色振分け印刷機(3号機、4号機)更新、新人事制度スタート
2001 平成13	中期経営計画発表、企画部門新設、印刷機全機に欠点検出装置設置完了
2002 平成14	青島加藤信包装有限公司設立(合併会社)
2003 平成15	ITシステム構築、ISO9001認証取得、自動ラック式倉庫設置製版部門新設、自家発電システム設置
2004 平成16	メッキ・製版システム本格稼働、製袋部門新設、三方、センタープレス製袋機設置、第二倉庫完成
2005 平成17	原価システムスタート、ドライラミネーター機(2号機)に欠点検出装置設置
2006 平成18	専務取締役 奥田拓己が代表取締役に就任 空調・給排気設備改修、ノンソルベントラミネーター機新設、シリンダー研磨機導入
2007 平成19	5S活動推進委員会発足、東京営業所設置、香川大学との共同研究スタート 新スリット機導入、企画室改装、UVインクジェットプリンター導入
2008 平成20	「人生在勤ノート」全従業員へ配布、インモールド関連印刷開始、印刷機2台に反転装置設置、検品機設置
2009 平成21	組織変更、チーム制導入、改定新人事制度スタート、高速三方製袋機設置
2010 平成22	創業40周年、VOC設備設置、構成分析装置設置、加湿装置設置、青島加藤信包装有限公司合併解消
2011 平成23	国内クレジット制度、排出削減事業が承認、盛和塾第19回世界大会にて稲盛経営者賞受賞
2012 平成24	本社第二工場竣工、空調設備全面改修、本社第一工場改修、新食堂設置、私たちの信条(credo)制定
2013 平成25	資本金3億1000万円に増資、おもてなし経営企業選出、ラミネート機更新、マイクロスコブ導入
2014 平成26	対侵入者映像記録システム設置、盛和塾第22回世界大会にて敢闘賞受賞 コーポレートメッセージ・コミュニケーショングラフィック制定
2015 平成27	ISO22000認証取得、新基幹管理システム「ワンピース」導入 新振分け印刷機(1号機・2号機)設置、グリーンプリンティング工場に認定、消防設備第一期改修工事
2016 平成28	消防設備第二期改修工事、新人事制度・目標管理制度スタート、製版彫刻機(エクストリーム仕様)導入 部門別採算制度(日時決算)スタート
2017 平成29	デジタルインクジェット印刷機導入、事業継続計画(BCP)策定、攻めのIT企業経営中小企業百選選出、 東京営業所移設
2018 平成30	香川県中小企業BCP優良取組事業所認定制度認定、新潟外部倉庫運用開始、コレクトアイシス導入、 在宅勤務規定制定
2019 平成31令和元年	マーケティング アンド セールズ戦略部新設、新ボイラー導入(重油式からLPG式へ転換)、 創業50周年記念事業として「工場見学研修」をスタート
2020 令和2年	創業50周年、四国でいちばん大切にしたい会社大賞受賞、香川県中小企業BCP優良取組事業所認定(更新)、 地域未来牽引企業選定、リモート立ち合いシステム導入、製函機導入、ノンソル調液装置導入、 東京営業所移転

